

講義名	企業論特別講義			授業形態	
担当教員	白鳥 和生 / 白鳥 和生		開講期・曜日・時限	後期 水曜日 3時限	
	単位数	2	履修開始年次	2年生	ナンバリング・コード SSP250

主題と概要

本講義では、様々な業界・企業で活躍しておられる実務家を特別講師として招聘し、経済・経営活動についての現状分析、基本的な考え方、将来展望等に関するご講義をいただく。直接に実社会で活躍される方々と接することにより、勉学の進化を図るとともに、社会人となるための基礎知識や考え方を学ぶ。また、「講義を聞き、考え、自分なりにまとめる」という体験を通して、社会における学びの方法を知ることを目指す。

到達目標

- ・業界や企業の現状、今後の課題や将来展望、ビジネス社会における心構えなど、実社会・ビジネスの動きや考え方について、実感を持って理解できる。
- ・実社会・ビジネスの世界において、社会人に何が求められているのかを認識できる。
- ・社会における学びのあり方や姿勢・方法を身につけている。

提出課題

定められた期限までに事後レポートを提出すること（提出期日厳守）。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出されたレポートに対する全般的な講評、優れたレポートの紹介などをまとめた文書を配布または RYUKA Portal の「講義連絡」に掲示する。加えて、授業内でも適宜解説する。

評価の基準

・授業への参加度・貢献度、授業の理解度（出席、毎回の講義後に作成するレポートの内容、講義での質疑への参加）、受講態度等を総合的に勘案して評価する。合格者内の評価は原則として相対評価とし、受講者全体の GP が概ね 2.0 となるように評価する。

履修にあたっての注意・助言他

・特別講師や日程は、RYUKA portal に掲示するので常に注意すること。
 ・以上も含めて、講義の進め方や受講ルールあるいは評価方法に関する詳細の説明・確認を初回の授業に行うので、受講者は初回の授業から必ず出席すること（初回講義の出席の有無に関わらず、初回講義に確認・伝達した約束事項は全体の約束事項として適用する）。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.なし。					

その他

適宜、配布及び紹介する。

授業計画

- 第 1 回：イントロダクション（受講の心構え、授業内容、ルールの説明と設定、講義予定企業名・日程）
- 第 2 回 - 14 回：特別講師による講義およびその前後に実施する補足講義（詳細は後期履修登録前に掲示する講師一覧を参照すること）
- 第 15 回：特別講義のまとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- (1)「ネアカのびのびへこたれず」の精神を持った人材
この科目の履修を通じて将来に夢や志をもつための大きなヒントを手に入れることで人材育成に貢献する。
- (2)知識を知識に受取ることができる、論理的思考力を持った人材
今日の経済社会で実態の起きていること、これから変化して行くであろう社会の姿について企業リーダーからヒントを得て、今後の社会経済情勢について思考できるようになる。
- (3)創造力を持った人材
新しい視点を自分に加えることができるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・特別講師との質疑応答は、様々な業界・企業で活躍しておられる実務家の考え方・生き方を知る上で、またとない機会であり、その機会が得られた場合は、積極的に取り組んでほしい。
- ・補充講義にあたっては、予習した内容の確認、授業内での質疑応答などを目的として、キャンパスクロスを介して課題を話し、その回答の提出を求めることがある。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。特別講師は、業界・企業で活躍しておられる実務家の方々であり、言うまでもなく、豊富な実務経験をお持ちである。その豊富な経験を縦横に活用した授業が展開される。

備考